

しまねの

女と男

ひと

ひと

特集

第52号

男女共同参画社会と若者世代の意識

～「大学生向けライフデザインに関するアンケート(第3回)」より～

目次

- 男女平等が当然と考えられるようになったとき
片岡佳美さん(島根大学法文学部教授)・・・2
- 「大学生向けライフデザインに関する
アンケート(第3回)」結果の概要・・・4
- ポケットクイズ ミニ解説・・・7
- リレーコラム・・・7
- あすてらす講座レポート・・・8
- お知らせ・・・8

ご存じですか?! 女と男との参画関係

あすてらすポケットクイズ

毎号、特集テーマに関連した男女共同参画に関するクイズ等を出题します。心のポケットにしまっておきたい、ポケットからちょっと取り出して伝えたい情報をご紹介します。ぜひチャレンジしてみてください。

管理職への昇進意向

(令和元年度「島根県企業向けアンケート調査」との比較より)

問題

管理職になりたい(なりたかった)かどうかについて、現役社員を対象にした別の調査の回答と今号で紹介する大学生の回答を男女別に比べると・・・?

- ① 男女ともに 現役社員 > 大学生
(現役社員の方が大学生より昇進意向が高い)
- ② 男性は 現役社員 > 大学生、女性は 現役社員 < 大学生
- ③ 男女ともに 現役社員 < 大学生

※答えは7頁のミニ解説【データ編】へ

男女共同参画社会と若者世代の意識

～「大学生向けライフデザインに関するアンケート(第3回)」より～

しまね女性センターでは、大学生たちの性別役割や結婚・出産、仕事と家庭のバランス等についての意識を知るために、平成25年と5年後の平成30年の2回に渡って、県立大学1年生を対象にアンケート調査を実施してきました。そして、それから5年経った令和5年11月にも、同じ県立大学1年生と今回新たに国立松江工業高等専門学校4年生を対象に同様の調査を行いましたので、若者世代の意識の傾向や変化した特徴などを探ってみたいと思います。

男女平等が当然と考えられるようになったとき

島根大学法文学部教授 片岡 佳美

2013年、2018年と、島根県立大学の学生を対象に実施された「大学生向けライフデザインに関するアンケート調査」。第1回調査から10年目となる今年、第3回調査が行われました。看護や保育の学科がある島根県立大学は学生の女性比率が高く、女性の回答が多めになるのですが、今回は男性比率がより高い松江工業高等専門学校の学生も新たに調査対象に加えられ、男性の回答も増えました。…と書きながら、いつになれば「看護・保育系は女性、工学系は男性」といった性別専攻分離はなくなるのだろう、と思いました。看護や保育を学ぶ男性、反対に工学を学ぶ女性も、少しずつ増えつつあるのも事実ですが、まだまだですね…。

このアンケート調査の結果を、大学等に通う18歳ぐらいの若者の意識の変化を表すものとして見ていきたいと思います。どのような傾向が見られるのでしょうか。

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」「女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ」「子育てはやはり母親でなくてはと思う」という、ステレオタイプな性別役割については、調査を行うたびに男女両方で否定的な回答の割合が大きくなってきています。「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」については今回、「そう思わない」と最も否定的な回答が女性で80.8%、男性で68.4%をも占めました。10年前は女性で57.1%、男性で48.2%だったので、この10年で意識が大きく変わったと言えます。将来結婚したときの家事・育児分担のあり方についても、「ほぼ半分ずつ分担するのが良い」という回答が毎回増加しており、今回調査では男女とも8割ほどになりました(10年前は女性で41.1%、男性で45.5%)。家計収入についても、「ほぼ均等に稼ぐのが良い」が増加してきており、女性においては67.7%を占めました(10年前は34.4%)。学生たちにおいては、従来の固定的な性別役割にとらわれず、何事も男女平等であることが規範になっているということは、これらの結果からも明確に

うかがえます。

では、そうした平等規範の浸透は、若者にとって「結婚・家族生活の魅力化」を意味するのでしょうか。実は第2回調査では、第1回調査に比べて男女平等を重視する割合が男女ともに大きくなった一方で、将来結婚したいという割合、子どもを持ちたいという割合が男女ともに小さくなっていました。今回の調査でも、同様な傾向が見られます。とくに女性においては、結婚を「ぜひしたい」という割合、子どもを「ぜひ持ちたい」という割合が前回調査よりさらに減少しました(p.4, p.5のグラフ参照)。男女平等の意識が高まるほど、むしろ結婚や子どもが遠くなるようです。

この点が気になったので、今回の調査データを用いて、従来の固定的性別役割に対する意識と、結婚・子どもを持つことへの意欲との関係について調べてみました。「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」についてそれぞれ「そう思う」4点、「どちらかといえばそう思う」3点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「そう思わない」1点と点数化しました。得点が高いほど、従来の固定的性別役割を肯定しているということです。この得点を、結婚について「ぜひしたい」と答えたグループ、「機会があればしたい」と答えたグループ、「どちらとも言えない」「あまりしたくない」「全くしたくない」のいずれかと答えたグループ(結婚に、より消極的なグループと見なします)のそれぞれで平均を計算し、それらの平均点を男女別に比較してみました。子どもを持ちたいかについても同様に3グループをつくり、それらのグループ間で「男は外で…、女は家庭を…」の平均点を男女ごとに比較しました。結果をグラフ化したものが、図1・図2です。

図1を見ると、全体的に平均点は1～2未満と低いのですが、それでも統計学的には性別×結婚意欲で有意な(意味のある)差があることが示されていて、「男は外で働き、女は家庭を守る」については、女性では結婚

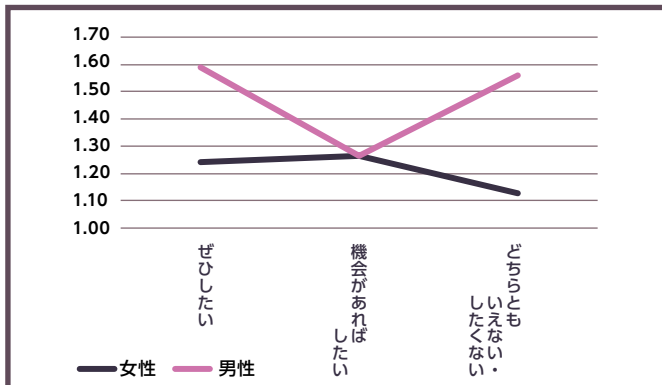


図1 性別・「結婚したいか」の回答別
「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」の平均得点

性別の差 $F=22.684, p<.001$ (有意)
結婚意欲の差 $F=3.281, p<.05$ (有意)
性別 × 結婚意欲の差 $F=6.363, p<.01$ (有意)

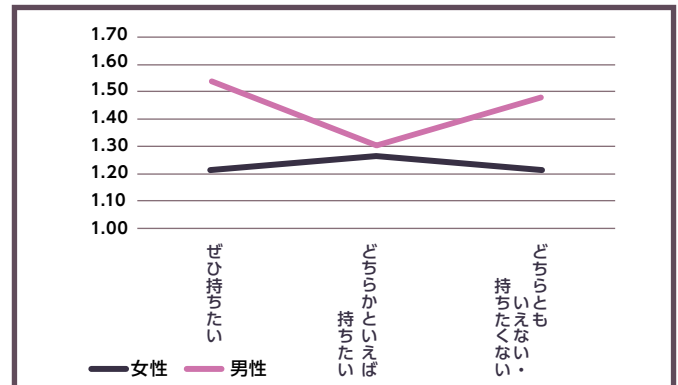


図2 性別・「子どもを持ちたいか」の回答別
「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」の平均得点

性別の差 $F=14.990, p<.001$ (有意)
子ども持つ意欲の差 $F=.986, NS$
性別 × 子ども持つ意欲の差 $F=2.461, p<.1$

に消極的なグループがより否定的で、男性では「機会があれば」と控えめに希望するグループがより否定的です。図2でも男性の折れ線は同じようなパターンです(こちらは、性別による差のみ統計学的に有意)。「男は外で働き、女は家庭を守る」というステレオタイプからの自由は、女性にとっては、結婚や子どもからの解放、男性にとっては、結婚したり子どもを持ったりしたくてもそれは状況・相手次第であり自分の力だけではどうにもならないということを認識することを意味するのかもしれませんが。

社会学では、人びとが伝統やしきたりといった拘束から解放され、個人の自由がますます追求される今日、親密な人との関係のあり方が変化してきていることが指摘されています。身内のような関係でも、なれ合いの無遠慮や支配は許さず、個人を互いに尊重し民主的な関係を築くことが重視されるようになってきているのです。イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズは、「純粋な関係性」という概念を用いてそれを説明しています。それは、個人がそれぞれ互いにつながりたいと思いつながっている限りにおいてつながっている関係のことです。つながる理由はそれだけで、その意味で「純粋」です。そのため、一方で「つながりたくない」と言えば、他方がどんなにつながり続けたくても関係を解消するしかない。つながりを維持したければ、自分の自由ばかり主張して相手に幻滅されないよう努めなけれ

ばならない。それが、個人の自由を互いに尊重した関係だということです。

こうした議論をふまえれば、学生たちにおいても、性別役割から解放され個人の自由の追求が進むにつれ、純粋な関係性が規範化または標準化されてきていると言えるのかもしれませんが。その結果、結婚や家族は、純粋な関係性とは反対の「自由がない、固定的な関係」ということで遠ざけられるものになっているのかもしれませんが。あるいは、結婚や家族を「純粋な関係性であるべき」と捉えるために「相手によって解消されてしまう可能性も考えないといけない、不安定な関係」となり、「もし機会があれば…」と前置きがつくような、自信のない、不確かなものになっているとも考えられるでしょう。図1・図2については、前者の説明が女性に、後者の説明が男性に当てはまるようにも見え、結婚・家族に対するイメージの男女の違いを表しているようで興味深いです。もっとも、この結果だけで判断するのは危険ですが…。

いずれにせよ、若い人たちにとって「結婚」「子育て」「家族」がどうなっていくのか、次の調査がもう気になっています。そしてまた、これだけ男女平等や個人の尊重が当然と考えられるようになってきているにもかかわらず、冒頭で述べた性別専攻分離がなぜ解消しないのかということも、重要な論点としておさえておきたいと思います。



かたおか よしみ
片岡 佳美さん プロフィール

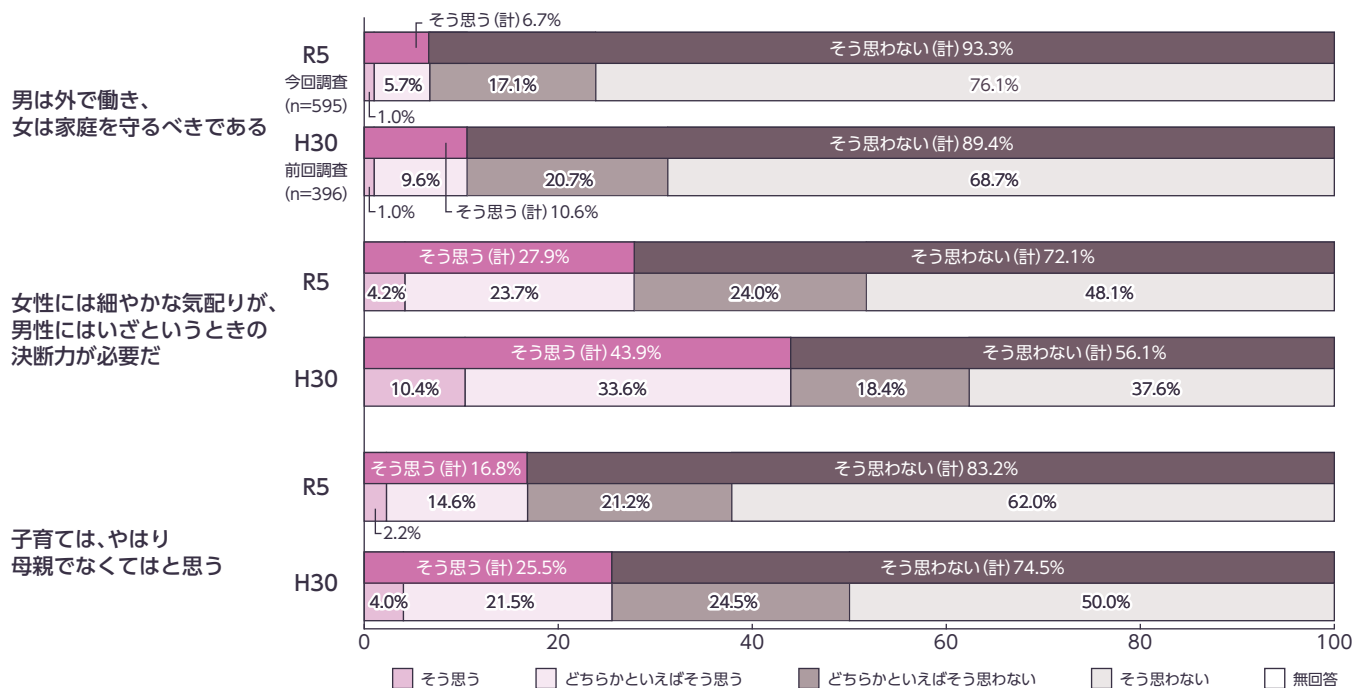
島根大学法文学部教授

専門は家族社会学。著書に『子どもが教えてくれた世界—家族社会学者と息子と猫と—』(世界思想社, 2018年)、『都会に出ること、地元で暮らすこと—島根県高校生・保護者調査から—』(今井出版, 2023年, 共著)などがある。最近取り組んでいる研究課題は、「条件不利地域における家族・地域生活の中に芽生える新たな価値についての調査研究」。

「大学生向けライフデザインに関するアンケート(第3回)」結果の概要

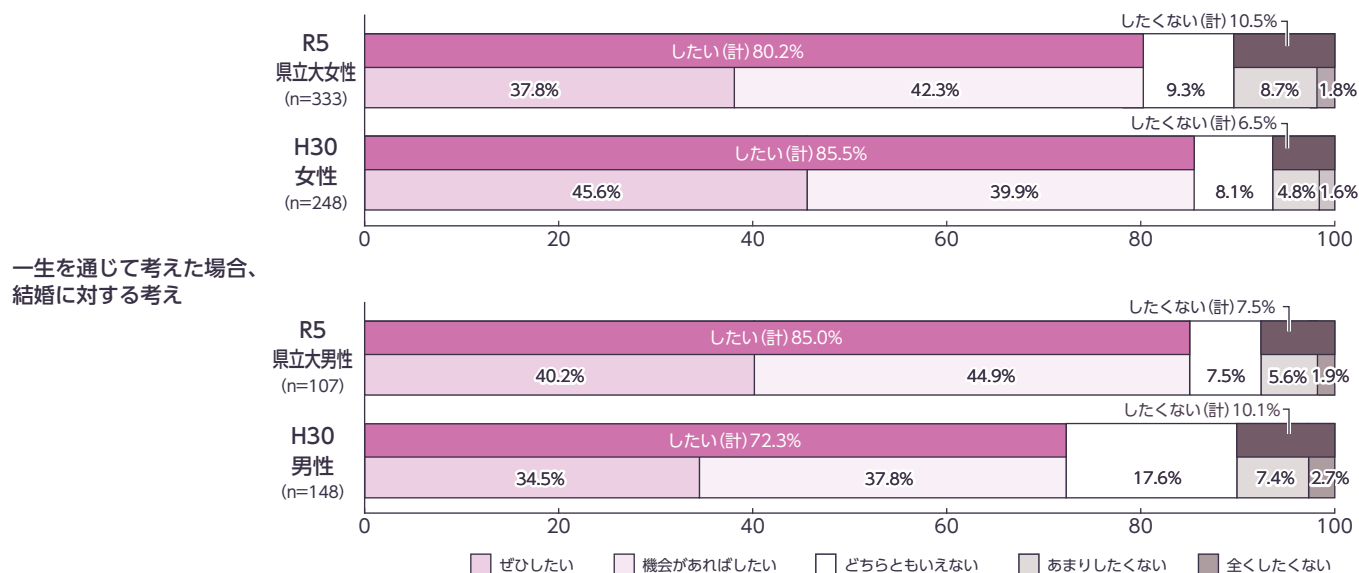
男女の役割等に関する意識

典型的な性別役割分担意識を示す「男は仕事、女は家庭」を始め、「女性は気配り、男性は決断力」、「子育ては母親」のいずれの考え方についても、否定的な人の割合が高く、7～9割以上を占めています。前回調査とは対象者が異なるものの、参考までに前回調査の数値と比べると、3問とも否定的な人の割合が増え、特に「女性は気配り、男性は決断力」、「子育ては母親」の考えに否定的な人が大きく増えました。



結婚についての希望

将来の結婚についての希望を、県立大学の回答のみで男女別に前回調査と比較すると、したいとする割合が男性は大きく増加し、女性は減少して、対照的な変化を見せました。特に「ぜひしたい」と結婚を強く希望する女性の減少幅が比較的大きくなっています。



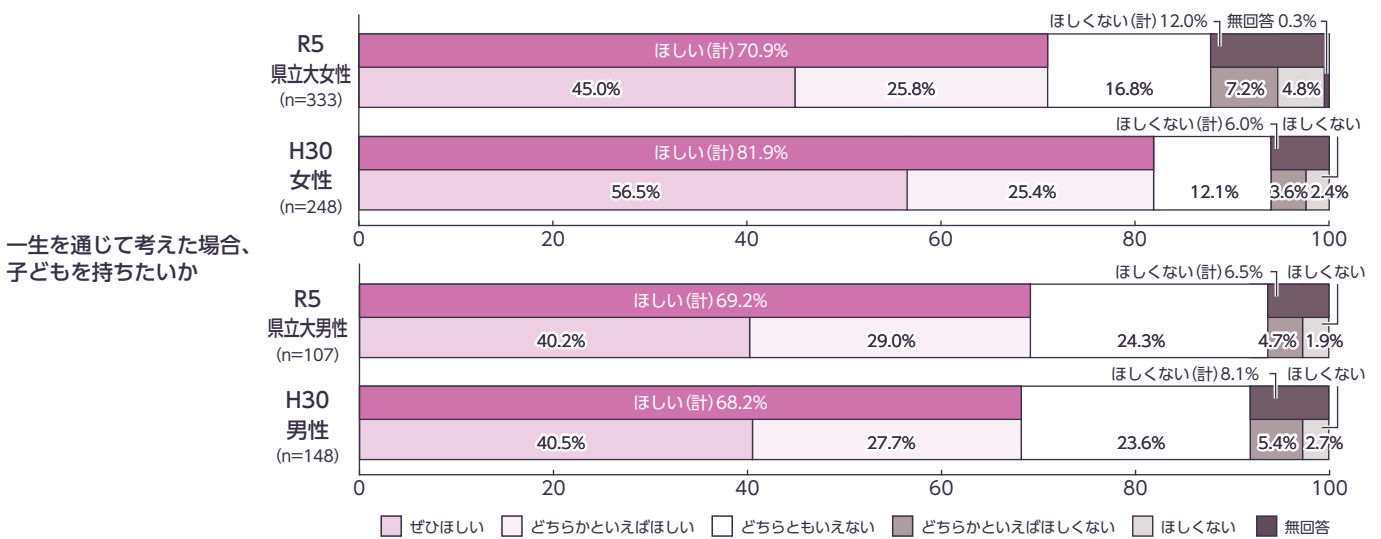
【大学生向けライフデザインに関するアンケート調査(第3回)】 [調査主体: (公財)しまね女性センター]

- 調査の対象 島根県立大学(浜田・出雲・松江の全キャンパス) 1年次に在籍する学生と 国立松江工業高等専門学校(松江)の4年次に在籍する学生
- 有効回収数 595人(女性365人、男性228人、その他の性自認2人)

※グラフ中のH30(前回)調査データの対象は、県立大学1年生のみ396人(女性248人、男性148人)

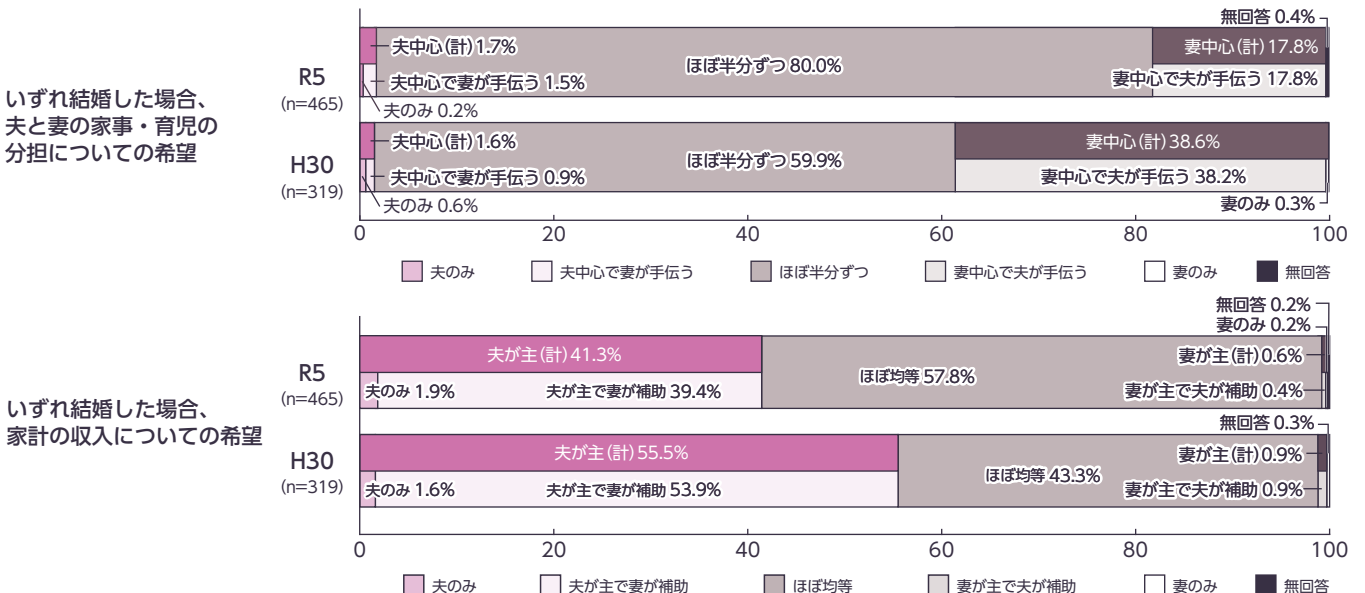
子どもについての希望

将来子どもを持ちたいか否かを県立大学の回答のみで男女別に前回調査と比較すると、男性は大きな変化が見られなかったのに対し、女性の場合ほしいとする割合が大きく減少しました。このため「ほしくない」人の割合(計)は前回と逆転して、女性の方が男性よりも多くなっています。



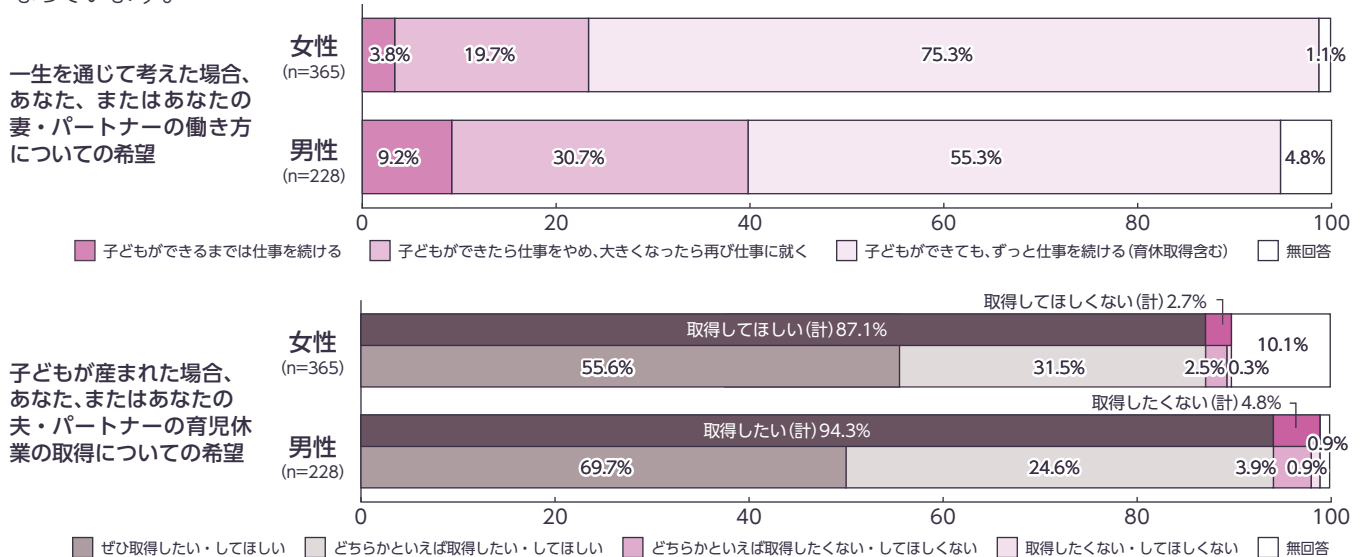
結婚後の家庭内での役割についての希望

将来結婚したいと回答した人(465人)対象に、結婚後の家庭内の役割について希望を尋ねると、家事・育児については夫と妻で「ほぼ半分ずつ」の割合が前回調査よりさらに増えて8割を占め、家計の収入についても夫と妻で「ほぼ均等」を希望する割合が増えた結果、「夫が主」とする割合の方が高かった前回調査と逆転して「ほぼ均等」が最も高くなっています。



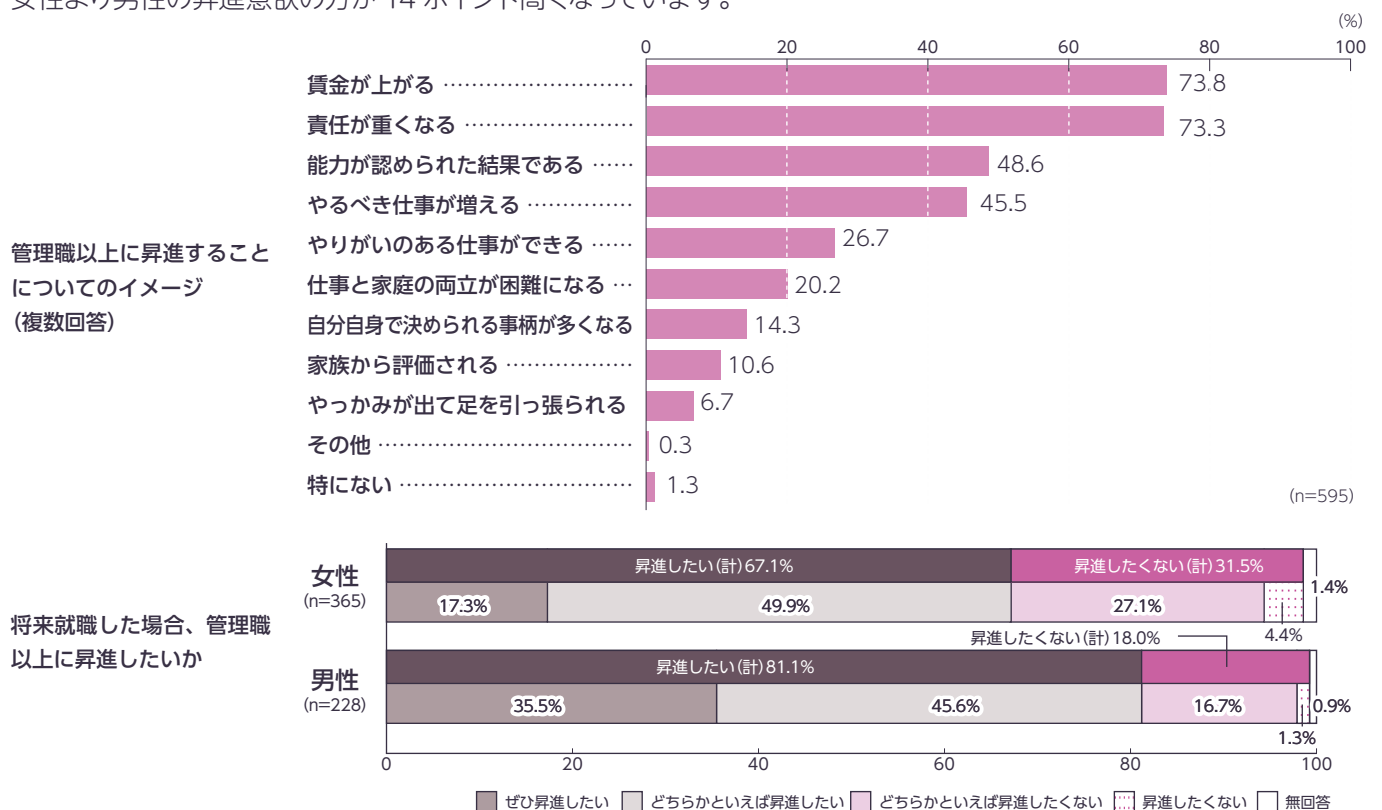
働き方についての希望

女性の働き方について、「子どもができて、ずっと仕事を続けたい(育児休業の取得を含む)」という「就労継続型」を希望する女性は75%を超え、妻・パートナーの就労継続を希望する男性より20ポイントも高くなっています。また、子どもが産まれた場合の男性の育休取得についても、取得を希望する男性の割合(計)は9割超で、8割台だった夫・パートナーの取得を希望する女性割合(計)よりも高く、当事者となる側の方が就労継続意欲、育休取得意欲ともに高くなっています。



昇進についての考え

管理職以上への昇進については、「賃金が上がる」と「責任が重くなる」というイメージが7割を超えて高く、これに「能力が認められた結果である」、「やるべき仕事が増える」が続いています。また、実際に将来昇進したいかについては、女性より男性の昇進意欲の方が14ポイント高くなっています。



■調査結果の詳細をお知りになりたい方は、下記宛にご連絡ください。

公益財団法人しまね女性センター 〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ236-4
tel:0854-84-5514 fax:0854-84-5589 e-mail:asu-08@asuterasu-shimane.or.jp

【問題】 管理職昇進についての現役社員と大学生との意向の差

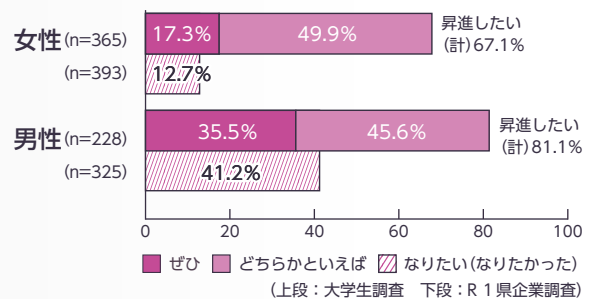
答え

③ 男女ともに 現役社員 < 大学生

今回の大学生向けの調査では、将来就職した場合に管理職以上に昇進したいかどうかを4択で尋ねていますが、島根県で令和元年度に県内企業1,000社向けにそこで働く男女社員各1名ずつを対象に実施した「島根県企業向けアンケート調査」(以下「R1県企業調査」)でも、今の職場で課長相当職以上の管理職になりたいと思うか(現在管理職の場合は、なりたいたったか)2択で尋ねる問いがあり、男女別に回答を単純比較すると、女性の場合は大学生の方が54.4ポイントも昇進意欲が高く、男性も大学生の方が39.9ポイントも昇進意欲が高くなっています。もちろん、2つの調査は実施時期や対象者の抽出方法、そして何より質問内容と選択肢の設定も異なるなど単純に比較してよいわけではありませんが、社会に出る前の学生時代に女性で6割台、男性で8割以上あった「昇進したい」との思いが、実際に働き始めると、様々な要因が重なった結果、男女ともに大きく低下してしまっているとも推察できます。特に、学生時代の昇進意欲が男性より14.0ポイント低い女性は、その後社会人になって更に大きく昇進意欲が下がり、現役社員の男女差は28.5ポイントにまで広がってしまった印象です。

島根県では、女性活躍推進の取組として、女性の労働力率の向上や男女のワーク・ライフ・バランスの促進に加えて、女性管理職の登用促進に向けた様々な施策を展開しています。これを受けて、しまね女性センターでも女性社員のスキルアップや管理職をめざすためのモチベーション向上に繋がる各種事業を実施していますが、これらを通じて、若い世代の希望や意欲がその後もくじけることのないよう努めてまいります。

管理職に昇進したい(計)
なりたいたった(なりたかった)割合 (単位%)



リレーコラム vol.20

これが今どきの恋愛観、結婚観、そして人生観？

ドラマを割と観ている。好きなジャンルはラブコメや純愛もの。私が10~20代の頃はドラマ全盛期で、しかも若者の関心は恋愛至上主義的な雰囲気でも覆われていたから、好きというよりは恋愛要素のあるドラマ視聴が当時から習慣化しているのかも知れない。その後フェミニズムと出会い、女性センターで働くようになってからは、フェミ的ツッコミを入れながら観る楽しみも増えたが、それに加えて最近では、普段会話をする事の少ない若者世代を始めとした、現在の恋愛事情を知る機会と捉えている節もある。

その上で、観ながらしみじみ思うのは「本当に、最近では恋愛や結婚の優先順位が下がったんだなあ」である。今や恋愛は、長い人生の中のオプションの一つで、したい人はするけどしなくても全然OK、たとえ恋愛したとしてもそれが本人にとって全て(最優先)ではない。ドラマや漫画で「若い女性の幸せは、素敵な彼氏と出会って紆余曲折あるけど、最後はめでたくゴールイン」という「理想」を植え付けられてしまった当時とは

隔世の感がある。(そもそも今の若者世代はゴールインが結婚と同義だったことさえ知らないのでは?)でも、それでいいのだ。当時の恋愛や結婚の「理想」が、女性たちから自立の機会や自由に人生を選択・設計する力を失わせた面があるのだから。

さて、そんな私が最近いいなと思ったドラマのセリフをいくつかご紹介。皆さんも興味を持たれたなら、ぜひ動画配信等でご覧ください。

- 「運命の人って、男女間だけのことか、たった一人の人って考えるのはどうかな」、「赤い糸は1本じゃないし、繋がったり切れたりする」(『ゆりあ先生の赤い糸』より)
- 「恋愛は素敵なことだけど、恋愛以外に楽しみを見出して初めて素敵な人間になれる」、「いちばんすきな人は一人じゃなくていい」(『いちばんすきな花』より)
- 「(「俺の家族になってよ。俺と結婚してください」に答えて)「断る!そこはまだ私の歩きたい道じゃないから。まず私は一人前の白玉佐弥子になりたいの。だからそれまで待って」(『マイ・セカンド・アオハル』より)

公益財団法人しまね女性センター 事業課長
小川 洋子

【ドメスティック・バイオレンスに関する県民公開講座】

- 講演 「デジタル性暴力を考える～広がるDV・デートDVの手口～」
- 日時 令和5年11月14日(火) 13:30～15:30
- 会場 【松江会場】 島根県民会館大会議室
【大田会場】 県立男女共同参画センター「あすてらす」研修室1・2
- 主催 島根県女性相談センター、(公財)しまね女性センター
- 共催 松江市(松江会場)、大田市(大田会場)



多忙な活動の合間をぬって
来県された講師の金尻さん

11月12日～25日は、「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。この一環として、島根県では毎年この時期に、県民一人ひとりがドメスティック・バイオレンス(夫や恋人からの暴力、DV・デートDV)に関する正しい知識を深め、暴力を許さないという社会意識を醸成するための公開講座を開催しています。

今年のテーマは「デジタル性暴力」。デジタル性暴力とは、性的な動画や画像を撮影したり、送信を要求し、それらを元に言うことを聞くよう脅す、SNSやアダルトサイトで拡散するなどの行為で、特に若年層が被害に遭いやすい傾向にあります。

今回はデジタル性暴力の被害者支援に取り組むNPO法人ぱっぶずの理事長 金尻カズナさんを講師にお招きし、被害の実態と脅威について、具体的な事例をもとにお話いただきました。性暴力や性的搾取を容認しない社会づくりのために、加害の予防が必要であるをご教示いただき、参加者一人ひとりが知識を深め、性暴力をゆるさない社会のあり方や支援体制について考える機会となりました。

参加者の感想(抜粋)

- ・若年層を取り巻く社会問題の一つとして、実情や支援の現状、課題などを詳しくお話いただき、非常に参考になりました。
- ・都会での話と思っていたが、地方でも時間の問題。加害者側はあらゆる手段を使ってくるのがわかりました。被害に遭った場合でも「相談する場所がある」ことを子どもたちには伝えたい。

あすてらすからの

お知らせ



「あすてらすフェスティバル2024」 開催準備中です!

毎年、島根県男女共同参画推進月間である6月に実施している「あすてらすフェスティバル」。来年度は、開館25周年記念も兼ねて開催します。詳しい内容は、決まり次第おっでご案内いたします。6月には、皆さん、あすてらすに集合して楽しく交流しましょう。

開催予定日 2024年6月15日(土)

- 記念講演 「どこまで来た?日本のジェンダー平等
～変えてきたこと、変えられなかったこと～」(仮題)
うえのちづこ
- 講師 上野千鶴子さん
(社会学者、東京大学名誉教授、
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長)

2月の 「あすてらす上映会」

入場
無料

● 日時
2月17日(土)
14:00～15:40

「凍える鏡」

(2007. 日本 100分)

※感染予防にご協力の上、
ご来館ください。



©2007 「凍える鏡」製作事務所



島根県立男女共同参画センター

あすてらす

〒694-0064 大田市大田町大田イ236-4 (JR大田市駅西隣)

TEL 0854-84-5500(代) FAX 0854-84-5589

ホームページアドレス <https://www.asuterasu-shimane.or.jp>

利用のご案内 ((誰でも気軽に利用できます!))

- 開館時間 / 9:00～19:00 (貸出し施設については21:00まで)
- 休館日 / 毎週月曜日・国民の祝日、年末年始(12月29日～1月3日)